

議 副 局 次 係  
議 議 長 長 長 長 長  
長 長 長 長 長

No. 1

行政視察・政務活動・議員研修) 報告書

平成30年11月30日

白石市議会議長 志村 新一郎 殿

議員氏名 四 籠 英 夫

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成30年11月15日(木)～16日(金)
調査・研修先	富山県魚津市、富山市
調査事項 (研修事項)	①インバウンドの取組みについて(魚津市) ②セーフ&環境スマートモデル街区整備事業(富山市)
対応者・講師等	①魚津市産業建設部商工観光課観光係 係長 高森哲也氏 ②富山市環境部環境政策課 竹田法信氏
概 要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 (感想、課題、 政策提言等)	① インバウンドの取組みについて 【魚津市概要】 ・北東は布施川を境に黒部市と、西南は早月川を隔てて滑川市、上市町と接している。北西は開けて日本海に面し、細長く南東から北西に向かって展開している。 ・市の南東部は最大標高2,415mに達する山岳地帯で立山連峰に連なり、これらの山々を源として早月川、角川、片貝川、布施川などが富山湾に注いでいる。 ・明治維新後の新川県当時は、1年余にわたり魚津市が県庁所在地となった。その後も商工業は着実な進展をみせ、昭和27年4月1日、1町11か村の合併により魚津市が誕生し現在に至っている。 ★面積 200.61km <sup>2</sup> 、都市計画区域4,436ha 用途地域430.5ha ★人口(h30.4/1) 42,224人(男20,480人、女21,774人) ★市の花(かのこゆり)市の花木(つつじ)市の木(まつ) ★魚津市の三大奇観 ①蜃気楼(4～6月と12～3月頃風のない穏やかな日に水平線上に景色が縦に伸びたり、上下が反転したりして見える現象) ②埋没林(昭和5年)魚津港修築工事の際に現れた230株余りのスギの原生林の樹根。 ③ホタルイカ胴長約7cmで、腹側、胴部などに発光器を持ち、国の特別天然記念物に指定されている。



## ★ 都市宣言等

- ①交通安全都市宣言(昭和 40 年 3 月 23 日)
- ②暴力追放都市宣言(昭和 40 年 3 月 23 日)
- ③健康都市宣言(昭和 52 年 3 月 19 日)
- ④非核平和都市宣言(昭和 63 年 3 月 16 日)
- ⑤ゆとり宣言(平成 2 年 6 月 20 日)

## 【インバウンドの取り組みについて】

## ★富山県魚津市・台湾インバウンドプロジェクト

## 1. 事業の趣旨

富山県と台湾の交流が進み、多くの台湾観光客が訪れている。中でも「立山黒部アルペンルート」は人気の観光地である。2015 年には 13 万人が訪れた。しかし、県全域に訪れているわけではなく、一部の有名観光地に留まっている。そこで、各地が独自の活動を行い観光客の誘致に力を入れている。

## 2. 戦略

インバウンドプロジェクトに取り組むに当り、イベント的な PR 事業ではなく「市と台湾との交流事業」「成果(送客がリピートにつながる仕組み)」という観点で推進した。周辺には「立山黒部アルペンルート」「黒部溪谷鉄道」「宇奈月温泉」「五箇山」「金沢市」「飛騨高山」があり、それらと共存共栄できる体制を考える必要があった。

## 【ステップ1】受入れ基盤の構築

## A) 飲食店メニューの「整体文字」対応(2014)

市内飲食店に対する外国語メニューへの支援。豊富な魚介類に恵まれ人口に対する飲食店の数は日本有数。地域の特徴に磨きをかけることで訪問者の満足度向上に努めた。

## B) 地元事業者と一枚岩に(2015)

「台湾インバウンド推進実行委員会」を設立し、市内の宿泊施設、飲食店、交通機関等が中心となり「具体的な受入れ方法の共有」「改善点のブラッシュアップ」などを行った。

## C) 受け入れ態勢(ソフト面)の強化(2016)

台湾人スタッフを雇用し「小回りの利く体制」で「現地旅行会社の窓口支援」「観光客のサポート」を実施している。「来て頂くからには満足して帰っていただく」をモットーにしている。

## 【ステップ2】パートナーとの関係構築

## A) トップセールスの実施(2015)

市と一緒に送客プロジェクトに取り組む意欲のある台湾の旅行会社

に対し、」市長自らが観光資源を熱く語ったことで、今後の流通の具体的なロードマップが決定した。

#### B) 視察ツアーの開催(2015)

ポップセールスの後韓国旅行会社の魚津市視察ツアーを実施した。視察では市の良いところを提案、体験してもらい、商談会の開催や課題・改善点の共有を行った。市全体が「台湾歓迎」という雰囲気醸成するきっかけとなった。

#### 【ステップ3】プロモーション(2015)

魚津市の認知度向上のため新聞・雑誌や業界紙ブログ・SNS、MR Tでの広告展開など様々な媒体でPRを行った。また、黒部市とも連携した行い、黒部峡谷への「ついで寄り」を促進させている。

#### 3. 効果や課題

これらの活動成果により、魚津市への台湾人観光客は増加している。また、魚津市により明確な目的を持って訪れてもらうために「更なる広域連携」「更なる観光資源の改善」に取り組もうとしている。また、「インバウンド」という一方通行ではなく、両者間の深い交流を継続するため、「都市交流や文化・スポーツ交流」などの裾野を広げる取組が期待される。

- ★ 考察 白石市も台湾の新竹市と友好関係を結んでいるので、もっと積極的親交を深め、観光客の誘客を図る必要がある。そのためには、日本からも台湾を訪れる必要がある。お互い持ちつ持たれつの関係で交流人口の拡大を図ることが大切と思う。白石市には白石城を始め天然記念物の材木岩、検断屋敷、スパッシュランドパーク、白石スキー場、七ヶ宿ダムなどの観光スポットがあるので、それらを活かした観光に力を入れることが必要と思う。

#### ②セーフ&環境スマートモデル街区整備事業（富山市）

- ・富山市概要
- ・総面積 1,241.77 平方km
- ・人口 421,959 人
- ・世帯数 159,151 世帯
- ・特徴 海拔 0 mの富山湾から標高 2,986mの水晶岳まで自然豊かな多様な地形、森林面積が市域の約7割、包蔵水力全国第2位(富山県)地熱資源量全国第2位(富山県)

#### ★目指す都市像～コンパクトなまちづくり～

鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に住居、

商業、業務、文化等の都市の諸機能を集約させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現。

<概念図>富山市が目指す「お団子と串」の都市構造

串⇒一定水準以上のサービスレベルの公共交通

お団子⇒串で結ばれた徒歩圏

<実現するための3本柱>

①公共交通の活性化

②公共交通沿線地区への居住促進

③中心市街都市の活性化

★コンパクトなまちづくりを基本とした環境政策

・環境モデル都市の選定（H20年7月22日）

・目的：温室効果ガスの大幅削減など高い目標を掲げて先駆的な取り組みにチャレンジする都市を選定し、世界の先例となる「低炭素社会」への転換を進める

・選定理由：公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを核としたCO2削減計画について評価を受けた

⇒富山市環境モデル都市行動計画

第1期計画：平成21年4月～26年3月

第2期計画：平成26年4月～31年3月

・環境未来都市の選定（H23年12月22日）

目的：世界に類のない成功事例を創出するとともに、その成功事例を国内外に普及展開することを通じて、新産業の創出や地域活性化など我が国全体の持続可能な経済社会構造を実現する

選定理由：LRTなどの公共交通を軸としてコンパクトシティを目指す戦略的な提案であり、地方都市の抱える課題の解決モデルになり得る

⇒富山環境未来都市計画

・第1期計画：H24年5月～H29年3月

・第2期計画：H30年4月～H35年3月

★環境未来都市計画概要

<地方都市の現状と課題>人口減少、超高齢化、厳しい財政運営、維持管理費等行政コストの増大等々

<これらに対応できる地方都市の1つの未来像を提示>

1. 公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり

2. 質の高い魅力的な市民生活づくり

3. 地域特性を十分に活かした産業振興

- ★事業内容 公共交通沿線の低未利用地において、環境に優しく安全・安心で快適な生活を享受できるモデル街区を備し、公共交通沿線での利便性お高い暮らしや環境等に配慮した質の高い住宅供給の促進を図る
- ・小学校跡地に交番、保育所、公民館、図書館等が集まる「質の高い生活環境」を提供する住宅街区を官民連携の手法により整備
- ★富山市セーフ&環境モデル街区整備方針
- ・事業コンセプト①集約⇒人口や都市機能の集約、また商業・医療・福祉施設などの適切な配置
  - ②公共交通⇒公共交通の活性化にあわせ、駅等へのアクセス強化とICT等を活用した利用促進
  - ③低炭素等⇒環境配慮型住宅、自然エネルギー（太陽光、小水力、地熱等）の活用
  - ④安全・安心⇒バリアフリー化やICT活用による防災・防犯等のネットワークの構築
  - ⑤交流・健康⇒地域コミュニティの醸成と健康増進を図る施設の整備
  - ⑥環境負荷の抑制を考慮したまちなみ形成や歴史文化の保全
- ★事業用地 所在地：富山市豊田本町1丁目地内(旧豊田小学校跡地)  
 開発面積：6,145.16㎡(住宅部)  
 区画数：21区画
- ★全体概要：豊田公民館・豊田地区センター・図書館分館  
 敷地面積／2,236.10㎡  
 延べ面積／1,126.63平方m  
 住宅街区：開発面積／6,145.16㎡  
 区画数／21区画  
 平均住宅面積／201.08㎡(60.83坪)
- ★豊田公民館の概要  
 所在地：富山市豊田本町1丁目2-5  
 敷地面積：2,236.10㎡  
 床面積：994.96㎡  
 構造：重量鉄骨造 2階建  
 工期：H29年4月～H29年9月  
 建築事業費：579,982千円

	<p>事業者：大和ハウス工業 k k 富山支店 駐車台数：32台 構造の特長：光と緑の力を採り入れている(光るダクト、採光口の工夫、光屈折フィルムの採用、壁面緑化、太陽光パネル等)</p> <p>★公民連携によるまちづくり 災害対策機能を備えた公園 ①災害対策機能のあるパーゴラ(災害時の臨時避難囲い) ②応急トイレツール ③災害備蓄倉 ④太陽光発電パネル、リチウムイオン電池、雨水タンクなどを設置</p> <p>★考察 廃校跡地を活用した理想的な宅地造成分譲事業で、環境モデル街区整備事業である。資源の有効活用、低炭素社会の取り組み、災害時の対策、光と緑を採り入れる工夫、市民生活に配慮した交通機能の充実等々モデルに相応しい取組である。白石市においても、廃校跡地施設の有効活用が課題となっており、こうした先進事例を参考にした検討が必要と思われる。</p>
--	--